

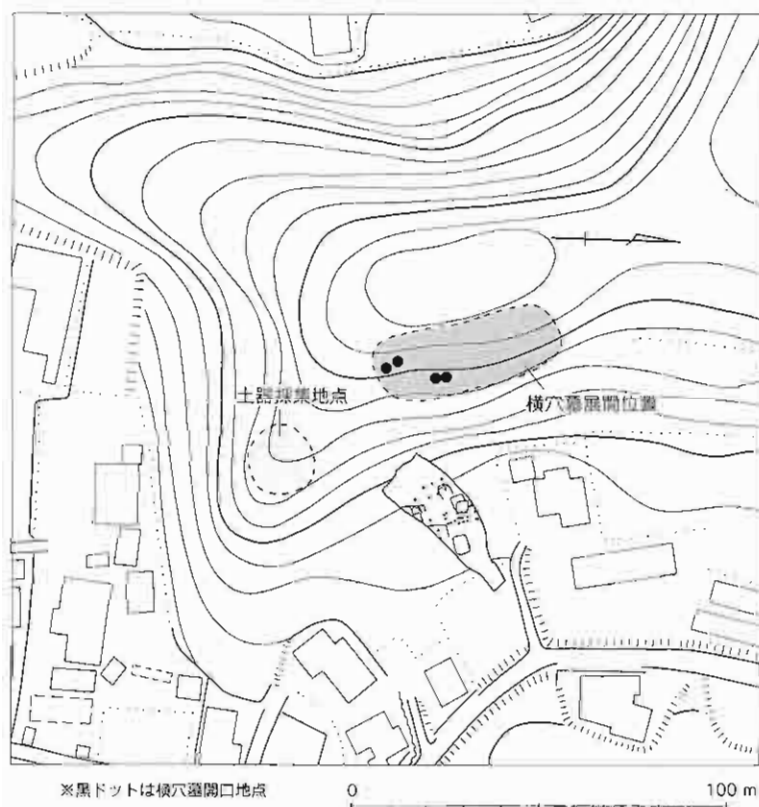
第V章 付編 大行事横穴墓群について

大行事横穴墓群は、大行事遺跡の調査中に発見された横穴墓群である。遺跡西側の丘陵斜面に横穴墓らしき穴が開口しているものが発見されたため、周辺の斜面を踏査したところ、これと同様な穴が開口している箇所が発見された。内部は一部農業用倉庫として、近年加工されているものもみられたが、開口部らしき箇所が多数みられたため、これらを横穴墓と判断し、周知遺跡に新規登録を行った。

第1節 横穴墓の位置と現状

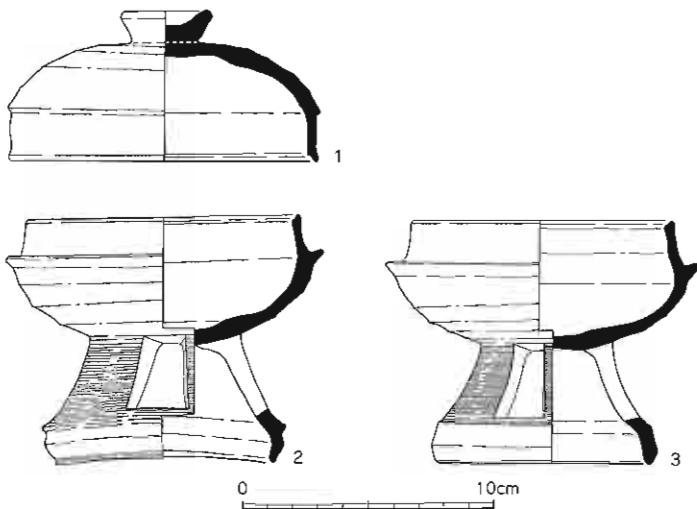
この横穴墓群は日田市大字西有田字平等寺1194他に所在し、日田盆地東部の有田川と花月川の合流点付近に形成される入り組んだ丘陵地に位置する。横穴のある丘陵は石松川右岸の独立丘陵で、長軸約500m、短軸約200mと北西から南東方向に細長く伸びる。頂部はやや平坦な台地形を呈し、標高は約131.5m、沖積地との比高差約35mを測る。この丘陵は中世日田を治めた群老の一人である石松氏の居城跡との推測がなされている。

横穴墓はこの丘陵の南東側の鞍部斜面に位置しており、この鞍部からは有田川沿いに広がる沖積地を一望できる好所でもある。横穴墓はこの斜面を巡るようにして確認された。特に北東側の斜面沿いに横穴墓一部開口が5箇所発見され、その他この開口地点周辺部及び、斜面上方に凝灰岩の割り貫かれたような痕跡が削平を受けた状態でみられた。完全に開口している横穴の内部形態でも、一部玄室隅と思われる箇所が隅丸形状に残存していた以外は、大半が後世に農業用倉庫として内部を加工していたため、詳細の把握は出来なかった。



第64図 大行事横穴墓周辺地形図 (1/2000)

また、この横穴群から約40m南西側の丘陵鞍部にある栗畑からは、須恵器が出土している。この栗畑の所有者の話では、栗畑の開墾時に切り株を除去したところ、切り株の下に大きな穴が空いており、その中に須恵器が入っていたということである。また、その他開墾時には赤色顔料が塗られたらしき石材も出土したとのことであった。この付近には開口部等は確認されなかったが、現況では大きく窪んだような箇所もみられ、これが横穴墓であった可能性も十分考えられる。この時出土した須恵器を土地の所有者の日野正行氏が採集されており、須恵器高杯2点、坏蓋1点、ハマグリと思われる貝殻が1点出土したことが判明した。な



第65図 大行事横穴墓採集遺物 (1/3)



写真6 大行事横穴墓採集の貝

お、この資料は平成13年5月に日野氏が日田市教育委員会文化課に寄贈され、市埋蔵文化財センターにて保管されている。

第2節 横穴墓採集の遺物 (第65図、写真6)

横穴墓から出土採集された3点の土器はいずれも須恵器でほぼ完形である。1は須恵器坏蓋で、天井部中央に中央部が窪んだツマミを有し天井部と口縁部の境に稜が見られる。口縁端部は細くやや外反する。外面は天井部が回転ヘラケズリ、口縁部が回転ナデ、内面は回転ナデである。色調は青灰色を呈し、胎土は石英、長石を含む。焼成は良好。口径12.4cm、器高5.9cmを測る。2は須恵器高杯で、1とセットになると思われる。坏部底は比較的丸く、受部は上方に伸びる。口縁部は内傾し、端部をやや窪ませる。脚部はややゆがみがあるものの、ハの字形に緩やかに外反し、脚端部付近で稜を持ち、内湾する。脚体部には台形のスカシ窓が3つ見られる。坏部は体部外面ヘラケズリ、内面回転ナデである。脚部は体部外面カキ目、内面回転ナデ。色調は青灰色を呈し、胎土は石英、長石を含む。焼成は良好。口径10.8cm、底径8.7cm、器高9.7cmを測る。3は須恵器高杯である。坏部底は比較的丸く、受部は上方に伸びる。口縁部は内傾し、端部をやや窪ませる。脚部はハの字形に緩やかに外反し、脚端部付近で稜を持ち、内湾する。脚体部には台形のスカシ窓が3つ見られる。坏部は体部外面ヘラケズリ、内面回転ナデである。脚部は体部外面カキ目、内面回転ナデ。色調は青灰色を呈し、胎土は石英、長石を含む。焼成は良好。口径10.2cm、底径8.3cm、器高9.6cmを測る。その他、ハマグリと思われる貝殻も出土している (写真6) おそらく高杯に入っていたものと思われる。

第3節 まとめ

大行事横穴墓は従来横穴墓の存在が知られていなかった有田川左岸にみられた。この横穴墓周辺には6世紀代後半と8世紀後半の集落が発見された大行事遺跡があり、集落と墓域が隣接して存在するひとつの例を提示している。この横穴墓から出土した遺物は小田編年Ⅱ-Aに相当するものと考えられ、少なくとも5世紀後半にはこの横穴墓群が形成されていたものと考えられる。

有田川を挟んだ対岸には佐寺横穴墓群、夕田横穴墓群などの横穴墓群が見られ、これらのうち佐寺横穴墓群は6世紀後半、夕田横穴墓群は5世紀後半から築造が開始され、6世紀初頭で一旦築造

を止め、その後、6世紀末～8世紀前半まで横穴墓群が形成される。このことから、有田川右岸では5世紀後半に築造が開始され、6世紀後半を中心としてその後8世紀まで築造されるようであり、この状況は有田川左岸においても当てはまる可能性は高い。現時点で大行事横穴墓群の時期変遷の検討は出来ないが、採集された遺物からすると、夕田横穴墓群の成立時期と一致しており、それ以外にも開口する横穴墓が幾つか展開していることから、同様に8世紀代まで継続された可能性は充分考えられる。と、すると、大行事遺跡で見られる古代の住居跡との関係についても、これら横穴墓被葬者の集落の可能性も考えられよう。これらの具体的検討については今後の調査に期待したい。

《参考文献》

「夕田横穴墓群」 『夕田遺跡群』 大分県教育委員会 1999

「佐寺横穴墓群」 『日田条里遺跡群・佐寺横穴墓群・大迫遺跡・白岩遺跡・下綾垣遺跡』 大分県教育委員会 1997



写真7 横穴墓現況写真①



写真8 横穴墓現況写真②



写真9 横穴墓現況写真③



写真10 横穴墓現況写真④



写真11 須恵器採取地点現況写真 ①



写真12 須恵器採取地点現況写真 ②



52-15



52-16



52-17

写真13 採集遺物写真